きずなの郷

第15号
2005 春

発行　社会福祉法人 厚 生 協 会　平成17年1月20日

法人創立50周年
記念式典…　1

特　集
わかふじ寮
創設50周年…　2・3
年表…　2
開校当時の思い出…　3
写真で振り返る
法人50年の思い出…4・5

各施設からのたより
わかふじ寮…　6
やすらぎ荘…　8
新得やすらぎ荘…　10
屈足わかふじ園…　11

連載 3
障害者の楽園づくりに生涯を
田中皎一先生の手記…　11

法人創立50周年記念式を挙行

佐々木理事長の式辞

斎藤新得町長　祝辞

さる平成16年10月30日、わかふじ寮地域交流ホーム「ふじ」で社会福祉法人厚生協会創立50周年記念式が開かれました。厚生協会は昭和28年藤川マキエ、田中皎一の両氏によって北海道身体障害者授産所として創設、昭和30年に法人格を取得しました。

式典には、町内外の関係者160名のご出席を頂き、先人に黙祷を捧げ、佐々木理事長の式辞の後、近藤十勝支庁長（代理　廣田十勝保健福祉事務所長）、斎藤新得町長、湯浅新得町議会議長、蛎崎北海道ろうあ連盟（代理　石澤北海道ろうあ連盟事務局長）よりご祝辞を頂きました。引き続き歴代の理事長４氏（いずれも故人）、法人役員８名に法人功労者感謝状を贈呈。１４名の退職職員（２０年以上勤務）に永年勤続表彰、ボランティアや授産事業に多大なご協力を頂いた企業等２８の個人、団体、企業に感謝状を贈呈させていただきました。

その後、藤崎北海道身体障害者福祉施設協議会会長の乾杯で祝賀会が開催されました。祝賀会では５０年の歩みをまとめたスライドが上映され、ご出席いただいた皆様には苦労の多かった創設当初から現在までを振り返っていただきました。当日は盛会のうちに湯浅北海道社会福祉協議会常務の万歳三唱で祝賀会を閉めさせて頂きました。

ご出席いただきました皆様からは、たくさんの身に余るお心遣いをいただきありがとうございました。

＊感謝状などを贈呈させて頂いた個人、団体は以下の通りです。（敬称略）

【法人功労者感謝状】
故　田村政雄（元理事長）・故　藤川マキエ（元理事長）
故　田中皎一（元理事長）・故　山本　実　（元理事長）
森　利一（元理事）・増田昭夫（元理事）・島田　要（元理事）・森本民幸（元監事）
乾　長子（元理事）・佐々木昇（元理事）・大関忠志（元監事）・大山口　功（元理事）

【永年勤続表彰】（２０年以上勤務し定年退職された元職員）
西川　進・高山昭三・森　洋子・田中恵子・加藤泰憲・西島多美子・森　義明
菊地龍雄・中静新一・笠井宏有・小又慶子・千葉文枝・高橋洋子・番場勝子

【感謝状贈呈】
（長年に亘り多額の寄付・寄贈を頂いた個人、団体）
橋本昭造・㈱ヒオキ・浅井医院・鹿追診療所
（長年に亘り授産事業に多額の発注を頂いた企業）
㈱ウッディランド南物産・㈱田村工業・㈱エフエム通商
（長年に亘りボランティアとしてお世話になった個人、団体）
藤川実践女学校同窓会・若藤会・わかふじ寮家族会・新得手話の会・井上浩一
金村妙子・新得物産㈱・佐藤力子・千葉月世・新得幼稚園・新得七宝同好会
コットンファミリー・上佐幌小学校・狩勝高原太鼓保存会・マキ電気・新和興産
しんとく女性の会・榎本一次・ともしび会・しんとく歩くスキーの会・若柳会

特集 厚生協会 創設50周年 3

昭和50年代のわかふじ寮の思い出

鈴木弘子（現　新得やすらぎ荘生活課長）

「鈴木さんかい？」古い事務所の受付けの小窓から真っ黒く日焼けしたごつごつした顔がのぞいて、緊張で全身がこわばった私にニコニコして話し掛けてくれたのを今でもはっきりと覚えています。それが田中先生に初めて会った時の事でした。ぽつんと事務所にいた私を見つけ、外から帰って来られた田中先生が小窓から声をかけてくれたのです。学生時代に手話サークルに入っていた関係で聴覚障害者の方の施設で実習したいと思い、北海道ろうあ連盟の職員の方に紹介していただき、わかふじ寮で実習をする事になりました。実習初日の田中先生の笑顔は本当に優しく暖かで、私の不安もすぐに消えていきました。

3週間泊り込みの実習を無事終えて、そしてそれが縁となり、昭和55年に半ば押し掛ける？形で就職しました。初めて親元を離れる不安と希望が入り混じった気持ちで、いつまでも学生気分が抜けない私に今思えば回りの先輩職員の皆さんはきっと手を焼いた事と思います。また、当時は卒業したての若い職員は私一人でしかも女性という事で、何につけても心配だったらしく、「いつでも何をしているかガラス張りにして見えるようにしておきたい」と田中先生が話されていたと聞いた事も今はなつかしく思い出されます。

職員も少なかったので現在のように分業されておらず、家具の注文もわからないなりに受け、みようみまねで定規を使い、つたない図面を書いて工場へまわしていました。ある展示会の時に受けた特別注文の棚が仕上がっていざ納品という時になり、全くと言っていいほど別のものに変身していた時はさすがにお客さんに何と説明したら良いものかと困りはてた事も忘れられない思い出の一つです。

健聴者の職員も少なく、現在と違ってファックスも普及しておらず、電話や日々の手話通訳も業務の中では大きな位置を占めていました。特に田中先生は北海道ろうあ連盟の連盟長としても大変忙しく活動されていましたので、札幌の事務局とのやりとりや他の団体との交渉など電話通訳は欠かせませんでした。ある団体との電話での話し合いの時、通訳が入るため返答がワンテンポ遅れるのですが説明しても理解していただけず、また私の手話技術も未熟という事もあって話が上手く伝わらず途中で電話を切られてしまった事もありました。また、何かの講演で手話通訳に立ったものの、どうしていいかわからずにしばらく棒立ち状態になり、回りの皆をひやひやさせた事もありました。

当時は工場の仕事が最優先で、現在のような行事や旅行などはなく、夏場は毎週日曜日に管内を中心に公民館等を借り受けて、家具の展示即売会にまわりました。トラックいっぱいに家具を積み込んであちこちの町へよく出かけたものです。今なら考えられない事かもしれませんが1～2か月休みがない事もありました。ただとにかく皆一生懸命で、やっぱり若かったのでしょうが、休みがなくても全然つらいとか苦しいといった気持ちはなく、毎日毎日が本当に楽しかったという記憶しかありません。

年末はクリスマスなど楽しめる余裕もなく、工場等の仕入れの支払いのまとめや利用者の帰省の準備など息つく暇もないほど忙しかった事もありました。当時はお金がなかったので支払いの値引き交渉も任されました。若かったので正直恥ずかしいという気持ちがありましたが、今思えばなつかしい思い出です。

いろんな失敗もしましたが、いつもそばに藤川先生や田中先生がいて支えて下さいました。また、他の職員の皆さんの暖かい指導もいただき、利用者の皆さんにもいつも助けていただきました。本当に感謝しています。

わかふじ寮という大家族の中で皆さんに支えられて、育てていただいたので仕事を続ける事ができたと思います。仕事を通していろんな方と出会い、触れ合い、学んだ事は何にも代えがたい大切なものです。藤川先生や田中先生に出会って教えていただいた事をいつまでも胸に刻み、これからも歩んでいきたいと思います。

― 年　表（昭和50年代以降）―

■昭和52年　3月
日本自転車振興会（競輪）の補助金を主財源として食堂・調理場・女子寮を新築する。

■昭和56年　4月
日本自転車振興会（競輪）の補助金を主財源として全国で2ヶ所目となる聴覚障害者養護老人ホームやすらぎ荘（定員50名）を開所する。

■昭和60年　11月
中央競馬社会福祉財団の補助金を受け、わかふじ寮カラ松集成材工場新築する。

■昭和62年3月
清水基金の助成によりわかふじ寮うるし塗装工場を新築する。

■平成2年　4月
日本自転車振興会（競輪）の補助金を主財源として特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘並びに在宅老人日帰りサービスセンターやすらぎ荘を開所する。

■平成3年　11月
わかふじ寮軽作業棟を新築する。

■平成8年　4月
日本自転車振興会（競輪）の補助金を主財源として、重度身体障害者授産施設第2わかふじ寮（定員50名）を開所する。

■平成9年　3月
中央競馬馬主社会福祉財団の補助金を主財源にして、やすらぎ荘食堂の増築を行う。

■平成10年　7月
国庫補助を主財源として、身体障害者授産施設わかふじ寮老朽改築を行なう。
国庫補助を主財源として、身体障害者通所授産施設わかふじワークセンター（定員40名）を開設する。

■平成11年　2月
中央競馬馬主社会福祉財団の補助金を主財源にして、ベーカリー機器の整備を行い、わかふじ寮内に『パン工房わかふじ』を開店する。

■平成12年　4月
国庫補助を主財源として、身体障害者療護施設屈足わかふじ園（定員50名）及び身体障害者デイサービスセンターを新築し開所する。

■平成13年　4月
居宅介護事業所新得やすらぎ荘、訪問介護事業所新得やすらぎ荘を開所する。

■平成15年12月
わかふじ寮・第2わかふじ寮・わかふじワークセンターに併設して、日本自転車振興会（競輪）の補助を主財源に地域交流ホームを整備する。

■平成16年12月
日本自転車振興会（競輪）の補助を主財源にわかふじ寮木工作業棟を増設する。
日本郵政公社・お年玉付郵便葉書の寄付金を主財源にわかふじ寮軽作業棟を整備する。

やすらぎ荘開所当時を振り返って

（介護員　森田　洋子）

昭和56年4月1日にやすらぎ荘が開所し、長い様で短い月日が23年過ぎました。
開所当時は職員が15名と利用者は、わかふじ寮から移られた方が8名と、病院から入所した方1名の9名でした。

深川市よりご夫妻が入所された時には、私達職員は、10日前より毎日準備し、希望と期待、もちろん不安もありましたが、胸がワクワクして迎え入れた事を昨日の様に思い出されます。その後も新しい入所者を迎え入れましたが、なかなか満床にならず、施設の運営は非常に苦しい中での出発でした。

あの頃は、施設が建ったものの、屋外の整備はまだできておらず、駐車場も砂利が敷かれたままで、モンタナ松や、梅の木を植えたりして少しずつ手作りで整備しました。冬の大雪の時は、まだ機械もなく職員と利用者が一丸となり、汗をかきながら除雪しました。

介護員は全員で6名で、北棟、南棟に3名づつに分かれていました。福祉を全く知らない普通の主婦が手探りで体当たりし、あっちにぶつかりこっちにぶつかりキズだらけで行ってきました。自分では無我夢中で一生懸命やって来ましたが、空回りする事が多かった様に思えます。それでも今までやってこれたのは、良い仲間と入所者に助けられた事だと思います。私が初めて担当したのが、5室10名で、まだまだ空室はありましたが、その時の利用者は今現在もとても元気で生活されております。

その他にも、施設の中で結婚式を挙げられ、他の利用者と一緒に御祝を行ったり、旅行で初めて飛行機に乗られる方もいたりして、とても感動されていた事などが思い出されます。それに、とてもすごい出会いもありました。又一生忘れる事の出来ない出会いでした。それは、藤川先生と、田中先生に出会った事です。当時藤川先生が私達介護員に話された言葉があります。「私は貴女の様に普通一般の女性が楽しむ様な、友達の家に遊びに行ったり、お茶を飲んだりする楽しみは捨ててこの施設の利用者の為にささげてきたのよ。」とお話されました。田中先生にも驚かされました。当時北海道ろうあ連盟の連盟長をされており、私たちが全道ろうあ者福祉大会に初めて参加した時に、舞台に立った田中先生に会場が「ワー」と言うどよめきがあり、握手を求める参加者が殺到していました。最近の福祉大会では、見られない光景でした。

思い起こすと私は、この23年間何人の入所者を迎え入れ、何人の利用者を見送った事でしょう。気が付くと周りに居た当時のお年寄りは指で数えるほどになりました。

これからも、人の出会いを大切に、自分がここまでやってこれた事に感謝して、自分の仕事が終わるその日まで日々精進してやっていきたいと思っています。

新得やすらぎ荘開所当時の思い出

（生活支援員　飯田　公美恵）

平成2年4月1日に新得やすらぎ荘が開所しました。開所当日は、私の勤務が夜勤業務という事もあり、朝から落ち着かず、業務に入ってからも夜間の静まり返った施設内をうろうろと歩き回っていた事を思い出されます。また、「骨が折れ易いので気を付けて介助して下さい。」等と言われると怖くてなかなか介助ができず、先輩の職員に助けて頂きながら業務を終える事ができました。その後も業務を覚えるのに必死で周りを見るゆとりのない私に対しても、利用者の皆さんが笑顔で声を掛けて下さった事が、とても励みになりました。また、養護から移られて来た聴覚障害の利用者の方には、手話を根気強く教えて頂き、一般の利用者の方には、生活の知恵を会話や介護をする中から教わるなど、利用者の方々と会話をする事が仕事をする中で楽しみの一つとなりました。

数ヶ月が過ぎて施設全体にもゆとりが出来るようになり、利用者の方々と一緒に何かを行い、楽しみたいとの事で、塗り絵クラブ・音楽クラブ・ちぎりえクラブ等を行う事となりました。現在は活動していないちぎりえクラブでは、「かさじぞう」の紙芝居を作りました。皆さんが協力して出来た作品は見事で、飾るだけではもったいないと利用者の数名の方に読んで頂き、クリスマス会で発表する事となりました。当日は利用者の方も緊張されていましたが、発表が終わった時には「上手に出来た」等と笑顔でおっしゃって下さり、その笑顔がとても印象的で今でも忘れません。その時に一緒に作られた方も少なくなり、年齢も90歳を過ぎ、「あの時は若かった。今は話そうとしてもなかなか声にならなくなった。」等と昔を懐かしそうにされ、久しぶりに出して見てみようか等と話されていました。

聴覚障害者と健聴者が一緒に生活されると言う事で、色々と難しい面もありましたが、聴覚障害者の利用者が持ち前の明るく、優しい性格で健聴者の方の手伝いを積極的にして下さった事により、健聴者の方も次第に心を開き、どうお礼を伝えたら良いのかなどを職員に尋ねるようになり、それがきっかけで利用者間の交流が深まるなど、利用者に助けて頂きながら仕事をして来たように思います。これからも利用者の方から色々な事を学ばせて頂きながら、頑張ってきたいと思います。

屈足わかふじ園開所当時を振り返って

（生活支援員　福田 慎太郎）

平成12年4月に屈足わかふじ園が開所しましたが、職員の殆どが社会経験のない新卒者ということで、初めての仕事に対して不安ではありましたが、新鮮さと元気良くを合い言葉に、利用者にとって住みよい施設になるよう頑張りました。

振り返れば、同年1月のオリエンテーションにて職員同士の初顔合わせをし、3月からは厚生協会の歩みや、よりよい職員になるべく講義・研修を重ね、開所に向けての準備を皆で行ったのを思い出します。
そして3月25日に開所式を迎え、多くの方々のご祝辞をいただきました。4月1日の開設初日に2名の利用者が入所されて以降、毎日のように入所の準備や見学者の対応に追われ、慌ただしく時が経ちましたが、職員一同力を合わせてその時々を乗り切ってきました。また、行事等を行う際にもほとんど手探りの状態でありましたが、職員同士アイデアを出し合い、利用者に喜んでいただける行事を企画したことも良き思い出です。

開所して以来5年を経過しようとしていますが、当時の意気込みや初心忘るべからずの精神を抱いて今後に役立てていきたいと思います。

法人50年の歩み

1953
（昭和28年）

昭和28年、故田村政雄氏（初代理事長）より寄贈頂いた、創設当初の建物

創設者の藤川マキエ、田中皎一両氏（いずれも故人）

創設当初のメンバー

初めて購入したテレビを囲んで

昭和34年完成直後の作業棟

完成直後の女子寮（現在のパン工房）

昭和40年代の作業風景

入所式（昭和46年）

展示即売会の模様（昭和40年頃）

ジャイアント馬場さんを迎えて

昭和50年頃の展示即売会の模様

わかふじ寮から一般就労した方々の同窓会

全国で2番目となる、昭和56年聴覚障害者養護老人ホームやすらぎ荘開所

平成2年、特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘開所

平成2年、日帰りサービスセンター新得やすらぎ荘開所

写真で振り返る

2004
（平成16年）

現在のわかふじ寮の全景写真

日本ハムファイターズから招待を
受け初めてのプロ野球観戦

平成15年、地域交流ホーム完成

道内初のALS専用居室
（屈足わかふじ園）

屈足わかふじ園での食事風景

平成8年、第2わかふじ寮開所

平成10年、初めての海外旅行（わかふじ寮）

平成10年、わかふじ寮家族会
によるゲストハウス建設

平成11年、わかふじ寮の新たな
授産事業としてパン工房オープン

平成12年、身体障害者療護施設
屈足わかふじ園開所

取壊し前日、40年間
お世話になった建物の前で

旧作業棟での作業風景（平成8年）

取壊し前のわかふじ寮作業棟

旧わかふじ寮取壊し前の全景写真

毎年恒例の、ふれあい盆踊り

優良勤労障害者表彰を受ける

（わかふじ寮）

平成16年度北海道障害者ワークフェアが9月3日、札幌サンプラザで開催されました。

北海道及び北海道障害者雇用促進協会が主催して例年行われており、障害者の雇用に深い理解を示し、雇用促進に貢献された事業所、ハンディキャップを克服し、職業人として活躍している障害のある方々が栄えある表彰を受けられました。

わかふじ寮からも3名の職員が優良勤労障害者表彰を受けられました。3名の氏名は次のとおりです。

技術指導員　川口　豊　高畑美優治

事　務　員　谷本　憲保

「自治会パークゴルフ大会」

（わかふじ寮）

9月25日、毎年恒例となりました自治会主催のパークゴルフ大会が行われました。

清々しい秋晴れの中、競技はクラス別にサホロリバーサイドと運動公園内のパークゴルフ場の2会場で行われ、日頃の練習の成果を競い合いました。

競技終了後、運動公園内の焼肉ハウスで美味しい焼肉を食べながら、お互いの健闘をたたえ合い楽しい時を過ごしました。

成績は以下の通りです。

男子　Aクラス
1位　佐治　信也
2位　西村　勉
3位　平田　常男

Bクラス
1位　犬飼　正
2位　中野　勝弘
3位　高橋　一郎

Cクラス
1位　鈴木　勝雄
2位　山口　正博
3位　柳瀬　幸信

Dクラス
1位　和田　誠
2位　斉藤　隆雄
3位　石川　勝也

Eクラス
1位　菅原　隆
2位　佐藤　政一
3位　竹　賢三郎

女子　Bクラス
1位　平田　くに子
2位　幸　眞知子
3位　加藤　憲子

Cクラス
1位　小松　征子
2位　木村　恵
3位　足利　晴美

Dクラス
1位　豊田しゅう子
2位　中野　知子
3位　池畑　トシ

文　化　祭（わかふじ寮）

11月6日（土）わかふじ寮地域交流ホーム「ふじ」にて、家族の方々21名の参加もいただき文化祭が行なわれました。

毎年恒例の出し物では、たんぽぽ園園児13人によるお遊戯があり、園児たちの可愛い演技に利用者も顔をほころばせていました。次に「わかふじ寮の50年を振り返って」と題してスライドショーが行われ創設当時の写真を前に懐かしんでいる方々の姿が見うけられました。その後「ボール当てゲーム」「パズルゲーム」などの出し物が行われ中でも西村さん、斉藤さんの「バケツの中身は何？」と題されたゲームでは中身がわからないバケツを指定された方がかぶるもので、参加された方々の笑顔がとても印象的でした。また今回は新得町手話コーラスの方々による手話の歌「まりもの歌」「見上げてごらん夜の星を」「涙そうそう」が発表され利用者からの盛大な拍手がおくられました。

一連の出し物が終わると、食堂に場所を変え昼食会が行われ美味しい料理を食べながら歓談し、楽しい一時を満喫することが出来ました。

わかふじ寮木工作業棟・軽作業棟完成　（わかふじ寮）

12月20日、待望の「わかふじ寮木工作業棟」・「軽作業棟」が完成しました。
「わかふじ寮木工作業棟」は日本自転車振興会（競輪）の補助金32,215,000円、新得町の補助金12,000,000円、自己資金84,357,500円、を合わせ総工費128,572,500円。「軽作業棟」は日本郵政公社お年玉付郵便葉等に付加された寄附金6,573,000円、自己資金16,821,000円を合わせ総工費23,394,000円となっています。

完成に伴い、各作業場から機材等の移動をする為、21日～年末年始にかけて引越しを行いました。今まで慣れ親しんだ作業場に別れを告げ、新しい作業場へ。旧作業場に別れを告げるのは少し寂しいですが、気持ちを新たに頑張っていきたいです。

わかふじ寮木工作業棟

軽作業棟

旅　行　（わかふじ寮）

毎年恒例の施設内旅行ですが、今年もあらかじめ自治会の代表者で行き先を3ヶ所決め、その中から利用者に自分で行きたい場所を選んでもらいました。

1班目は10月26日～10月28日の日程で佐渡へ。中越地震の直後という事で出発が心配されましたが、佐渡に直接的な被害はなく新潟空港も特に問題がなかったことから、無事に出発することができました。

旅行初日は新潟から船で佐渡に渡り、そのまま宿へ。

2日目は佐渡金山・佐渡歴史伝説館・酒造等を見学。盲聾の方は別行動で、陶芸の体験をしました。目が見えなくても、手で触れて楽しんでもらう為です。ゆったりとした日程で、のんびりと佐渡を楽しめたようです。

2班目は11月9日～11月11日の日程で長崎・熊本へ。長崎の気温は25℃と真夏日！新得はその日8℃位でした。暑い中、初日はカステラセンターで出来たてのカステラを試食した後、長崎の夜景が一望できるホテルへ。天候にも恵まれ、三大夜景の1つと言われている夜景に歓声が上がりました。

2日目はめがね橋や大浦天主堂、グラバー園を見た後昼食をとり、皿うどんやちゃんぽんを堪能しました。その後フェリーで熊本へ渡りました。この日の宿泊は広々とした温泉旅館。ゆっくり温泉に入って疲れを癒す事ができました。3日目は熊本城と水前寺公園を観光し、楽しい旅となりました。

3班目は11月17日～11月19日までの日程で沖縄へ。気温はこの旅行の中で最も高く28℃！しかし、あいにくの雨でした。しかしそんな雨に負けず、守礼門を見学した後ホテルへ。

2日目はビーチに行き、グラスボートに乗りました。ボートの底がガラスになっており、水中にいる魚や海ヘビを見ることが出来ました。この日も天候が悪かった為水中が少し濁っていましたが、
普段目にしない光景に感動しました。3日目は琉球ガラス村、ひめゆりの塔を観光しました。

参加された家族の皆さん、利用者の皆さん、大変お疲れ様でした。
また来年も楽しい旅行にしましょう。

全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会利用者交流会 （やすらぎ荘）

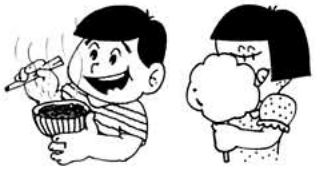
聴覚に障害を持つ方の老人ホームは全国に6施設しかなく、1年に1度職員と利用者の交流を深めようと毎年交流会が持ち回りで開かれています。今年は1月5、6日に当施設が担当となり、阿寒・ホテル鶴雅を会場に準備を進めてきました。当日は久しぶりの再会を喜び合い、名刺交換をしあうなど賑やかな雰囲気に包まれました。

また、施設の近況が書かれたポスターを各々プレゼントとして交換しました。翌日は阿寒湖上を遊覧し、来年の再会を約束しました。現在、ポスターは廊下に飾っており、参加ができなかった方も他施設のようすを、目を細めて眺めています。

味覚祭 （やすらぎ荘）

9月30日に、特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘と養護老人ホームやすらぎ荘の合同行事として、秋の味覚祭が行われました。 味覚祭では、食べる楽しみの他に、作る楽しみも合わせて味わってもらえる様に、午前と午後に分かれて芋団子、南瓜団子作り、鶏肉の串刺し、焼きそばの材料切りを行いました。参加されている利用者の包丁さばきや手際の良さは素晴らしく、く、又その表情はとても生き生きとされており、「美味しいのが出来るといいね。」と話され、夕食が待ち遠しい様子でした。

陽も沈み食堂も秋らしい雰囲気に変った頃、味覚祭が始まりました。炭で焼いた鳥串やししゃも、手作りクレープなどが次々と運ばれていきます。料理の中でも利用者の皆さんが準備した焼きそばは好評で、すぐに無くなってしまうほどでした。食べ終わると皆さん「美味しかったよ。」と笑顔で答えて下さり、楽しい時間を過ごす事が出来ました。



1泊旅行 （やすらぎ荘）

10月13、14日の2日間、阿寒に1泊旅行に行きました。阿寒のホテル「花ゆう香」でランチバイキングを食べた後、みんなでアイヌの民族衣装を着て記念写真を撮りました。その後、高速遊覧船で湖を周遊し、チュウルイ島に降り見学しました。夕食はとても広いバイキング会場で、和食、洋食、中華といろいろありましたが、利用者の皆さんは、和食を中心に食べられとても満足されていました。

又2日目は、弟子屈町の「900草原」で360°牧場を見渡せる広い景色を見渡しとても感動された様子でした。その後に、足寄町の「オンネトー」に行き記念写真を撮り帰荘しました。車イスの方が多かったですが、皆さん無事に楽しんでくる事が出来良い思い出になったと思います。

2泊3日旅行 （やすらぎ荘）

9月14日～16日の3日間、利用者の皆さんが、とても楽しみにされていた2泊3日旅行に行って来ました。今年の旅行先は、宮城、岩手県でした。二日目に訪れた遠野八幡宮では、遠野祭りが行われていて、獅子舞等の郷土芸能を見学する事が出来ました。三日目には、浄土ケ浜で遊覧船に乗り、船の後についてくるカモメにパンをあげたり、とてもキレイな景色を見て楽しまれていました。他にも南部鉄器会館、中尊寺、報恩寺等を観光して、温泉にゆっくり入り豪華な食事を堪能して、あっという間に楽しい旅行を終えました。

町民芸能芸術祭（やすらぎ荘）

11月7日（日）に町民芸能芸術祭が、公民館大ホールにて開催され、12名の方が舞台部門で参加され、「花の手拍子」を踊られました。今年はユニークダンスパーティーの練習も重なってしまい、思い通りの練習に取り組む事が出来ないまま本番を迎え、更に舞台に上がった時、始めの3分間位テープの音が鳴らないというハプニングも起きてしまいました。

しかし、動揺することなく、大舞台で素晴らしい踊りを披露する事ができ、会場で御覧になられていた町の皆様から拍手喝采を受ける事が出来ました。堂々と踊り終えた後は、満面の笑みを浮かべたまま記念撮影となり、発表会は無事終了となりました。

お料理日（やすらぎ荘）

今回作るのは利用者に人気のある「どら焼き」と「芋の塩ゆで」です。

朝から「私も作る」と積極的にエプロンをつけて女性のほとんどの方が参加されました。「男子厨房に入らず」という時代を生きてきた男性メンバーの中からも「オレも負けんわ」とタオルとはちまきをし、気合いを入れて参加された方が2名いました。畑から穫れたジャガイモの皮をむく班、どら焼きの生地を作る班、あんこを丸める班に分かれて準備をしました。そんな班の中に、あんこをつまみ食いし「エヘヘッ」と嬉しそうにほおばっている利用者が何人かいました。生地を焼くコースでは、みんなで交代しながら生地をフライパンにのせてからひっくり返すまで体験してもらいました。出来上がったいろんな形のどら焼きと好きな飲み物をおやつにごちそうになりました。驚いた事に、コーヒー豆から作ったコーヒーをブラックのままで飲まれる方が多かったです。

美容室コットン来荘

（新得やすらぎ荘）

9月14日に帯広の美容室コットンからたくさんの美容師さんがボランティアに来られ、特養では33名の方が整髪して頂きました。 その間皆さん気持ち良さそうな表情をされ、終わってからも「良かった」「うれしい」とおっしゃっていました。又、デイサービスの利用者の方も10名、整髪して頂き大変喜んでいらしたようで、希望されなかった方も、整髪している様子を見学され、楽しんでいらっしゃいました。いつもと違う雰囲気の中で、楽しく美容師さんとお話しながら髪を整えて頂き、うれしそうな笑顔から満足して頂けたのではないかと思います。

新入所者紹介（やすらぎ荘）

★松下徳次郎さん

養護では最高齢となる91歳です。とても温厚な方で、いつもほがらかな笑顔をみせてくれます。お酒が好きで、お酒の時間や行事食でよくたしなみます。これからも体調を崩さず元気に過ごされてほしいものです。

★石尾彦司さん

土木関係の仕事をされていたそうで、頑丈な体をしており、頼もしい方です。入所したばかりなのか、いつも照れくさそうな笑顔をされていますが、やすらぎ荘での生活を元気に楽しく過ごされてほしいものです。

紅葉見学

（新得やすらぎ荘）

10月20日に利用者7人とバスに乗り屈足ダムへ紅葉を見に行きました。少し曇っていましたが暖かく、そこから見える山々が赤や黄色に染まり、とてもきれいでした。利用者の方々は、紅葉を見ながらお話し、お菓子を食べ、帰り際には落ち葉を拾われ施設に持ち帰る方もいて、大変喜ばれていました。

特養のヒーロー・ヒロイン

（新得やすらぎ荘）

今回のヒロインは、8月に入所された笑顔の素敵な鈴木　美津子さんです。

車椅子での生活ですが、毎日の歩行練習も欠かさず、元気に生活されていらっしゃいます。又、御主人の面会を楽しみにしておられ、会いに来られた時は、大変喜ばれています。これから寒い季節になりますが、風邪などひかずいつまでも元気に生活してほしいと職員一同願っております。

秋のドライブ

（日帰りサービスセンターやすらぎ荘）

10月27日から11月２日まで気分転換と秋の景色を楽しむ為サホロスキー場，狩勝梅園へドライブに行きました。ドライブ中は，鮮やかに色づいた紅葉やすっかり葉を落とした梅の木などが晩秋を彩り，皆さんの目を楽しませてくれたようです。

又，焼酎工場付近で「焼酎を飲んでいこう」と冗談を言う方や旧新内駅の前で写真を撮る方，文学の散歩道にある句碑を読む方などそれぞれ過ごされていました。

秋晴れの日だけでなく，初日には雪が降り冬の訪れに一喜一憂する方もいましたが各々に秋の景色を楽しんで頂けたと思います。

おやつの日

（新得やすらぎ荘）

11月17日は１年に2回の「おやつの日」でした。前回はホットケーキでしたが、今回はふわふわ団子にし、砂糖醤油、きな粉、あんの３種類の中から好きな団子を選んでもらいました。飲み物も、ホットコーヒー牛乳と、クリームソーダー、冷たいお茶、温かいお茶の4種類を用意し、好きなのを選んで頂きました。いつもはクリームソーダーが人気ですが、寒い季節という事もあり、ホットコーヒー牛乳の方が好評で団子は「あん」が一番人気でした。

雰囲気作りとして、音楽をかけたり、のれんを作り茶屋の様な感じにし、自分でもらいに行き、好きな味付けを選んでいました。又、団子は豆腐を合わせて作り、高齢の利用者の皆さんにも食べやすく、多くの方が「柔らかくて美味しい」と、おかわりされ、満足されていたようです。

連載 障害者の楽園づくりに生涯を 3 （田中　皎一）

（ろう者の授産施設の建設に）

私はここで意を決して、8年間のろう教育より身を引き、まずろう児の施設である御影家庭園に入った。昭和26年春のことであった。ここでは慣れない手にスコップ、ツルハシを持ち、木の根を掘って池をつくるなど、施設づくりから仕事を始めた。皆の努力のお陰でこの家庭園を財団法人から社会福祉法人へ組織を変更することにも成功し、やがて施設の運営も軌道に乗ってきたので、いよいよ、ろう者たちだけの授産施設も本格的に考えるようになった。

私の教え子が一様に工作に興味を持ち、熱心であることに着眼し、木工の授産施設を建設することに決心した。
決めれば、いろいろと糸口も出来るもので木工の場合、木材資源の豊かな新得町で木工工場や建築請負、家具製作販売などと、幅広い事業を営んでおられた田村政雄氏のご協力が得られることになり、宿望のこの大事業に着手したのである。

特別の財源は所有する由もないが、最初落ち着いた所は新得町東一線の製菓工場の住宅であった。もちろん田村氏の所有である。そこに早くも私の教え子が2人も集まって来た。

初めは独立した施設は皆無なので、まず田村氏の従兄弟の方が経営している石川家具製作所に、私はこの2人と入所した。日給200円の職工と同じである。田村氏も石川氏も大変度量のある立派な方であったが、耳の聞こえない人に接するのは初めてで、何かと誤解されることがあった。親切に何度も話して下さるのだが、下を向いての作業中は、何を言われても分からないので、知らん顔をして自分の好きなようにやっていると、どうして小言を言われるのか分からず、「不親切な主人だ」とこぼすこともあった。

（耳の聞こえない人の実情を知らせる）

このような中に立って私も耳の聞こえない1人だが、憩いの時などを利用して、耳の聞こえない人は、視線が向いていて神経が注がれていなければ、どんな大声で話してくださっても分からないということをお伝えした。

また、ろう者にも、ここのご主人はお金儲けの考えはなく、私たちに技術を教えて下さろうと骨折っておられるのだと何度も話し、心から敬う気持ちを持ってもらうよう努めたのであった。

まもなく、田村氏のご配慮により、西1線の旧わかふじ寮があった所にかつてあった木造70坪程の建物に移った。中学校の前でもあり、環境がよく施設にもってこいの場所と感激し喜びし合ったものである。入所者も1人、2人と増加し、ろう者の楽園、授産施設の建設を目指して建築用砂利運びに精を出した。

またある時は、活路を聞きたいと、耳の聞こえない人たちの実情を社会に訴えた。自分の話し声の高低も分からない身ながら、十勝地区社会福祉建設の青年弁論大会に出席し、十勝支庁長や福祉関係者の前で、耳の聞こえない人の立場を論じたこともあった。

次回広報誌　続く

社会福祉法人 厚生協会 たんぽぽ園

園児募集

17年度

募集年齢　0歳児（2ヶ月から）
1歳児
2歳児
3歳児
} 15名

社会福祉法人 厚生協会
たんぽぽ園
TEL. 01556-4-3495

※保育料　月40,000円（兄弟がいる場合2人目は半額になります）
1日2,700円　1時間500円
上記すべて昼食、おやつ込みです。詳しくはお問い合せください。

秋のドライブ （屈足わかふじ園）

今年の一泊旅行は、浦河町にある優駿ビレッジ［アエル］というホテル（一回目9/7～8、二回目9/14～15）と町内の屈足温泉レイクイン（9/21～22）に出掛けました。

アエルでは陶芸を行い、それぞれコーヒーカップやお皿等を自分の好きな形に作りました。出来上がりも素晴らしく、自分で使用される方がいたり、家族にお土産として渡される方もいました。夜はバーベキューを行い、色々な種類の肉や野菜を美味しくいただきました。翌日は浦河町の街並をドライブし、牧場や漁港から海を眺め、その自然の雄大さに感激していました。新得町からは少し遠かったですが、どの利用者も満足した表情をされていました。

屈足温泉レイクインでは夕方に出発し、初日は温泉に入ったり夕食を食べたりしました。普段とは勝手が違い、なかなか寝付けない利用者もいたようです。次の日は然別湖へ行き、紅葉はまだ始まっていませんでしたが、湖と森林がおりなす神秘的な景色を満喫してきました。出掛けられた利用者は「楽しかった」といい、施設に帰ってきました。

屈足南小学校収穫祭

（屈足わかふじ園）

9月16日に屈足南小学校の収穫祭に、利用者・職員が各4名ずつ合わせて8名が参加しました。小学校では生徒の皆さんが3つのグループに分かれ、いろいろなカレーの味を用意されており、利用者はとても喜ばれていました。またカレーだけでなく、各グループでジャガバターやジャガイモとにんじんのサラダ等も用意されており、どの利用者も美味しそうに食べられていました。

他にも利用者と生徒との交流を図る時間もあり、中には緊張して生徒と上手く話すことが出来ない利用者もいらっしゃいましたが、次第に打ち解け、和やかに交流を図ることができました。

最後にお礼の挨拶として、利用者を代表して森さんが南小学校の皆さんに感謝の言葉を述べられて帰園しました。

屈足南小学校の皆さんにはご招待していただき、利用者並びに職員共々感謝しております。ありがとうございました。

新得音頭披露（屈足わかふじ園）

9月11日に、斉藤町長をはじめとして町内の有志の方々約100名が来園され、新得音頭を披露していただきました。利用者も大変楽しみにされており、準備をしている間も今か今かと待ち望まれていました。踊り手の皆さんは、利用者の間近で新得音頭を披露して下さり、利用者の中には、曲に合わせて踊ったり歌ったりと楽しそうにされていました。

踊り手の皆さんが帰る頃には、「来年も来て下さいね」と声を掛ける利用者が何人もおり、「また来年も来ますので楽しみにしていて下さいね」と返して下さり、利用者はとても喜ばれていました。中には握手をして下さいと頼む方もおり、満足した表情をされていました。利用者にとって、とても楽しまれた1日だったと思います。

東京ディズニーシー

（屈足わかふじ園）

10月4～6日の3日間、東京ディズニーシー旅行を計画し、利用者・家族・職員を含め計9名で行ってきました。

初日は移動のみであり、帯広空港から羽田空港、ホテルへと直行し、どの利用者も飛行機の旅を楽しんでいるように感じました。夕食はホテルでのバイキングでとても美味しく、普段以上に召し上がっていました。

2日目は、この旅のメインイベントである東京ディズニーシーを満喫する予定でしたが、生憎の雨でした。全身が隠れるくらいの大きなカッパを着用して出発しましたが、外で行われるショーは全て中止で、ミッキーにも会えず残念でした。屋内で行われているショーを見たり、買い物を楽しまれていました。さらにホテルからディズニーシーまでミッキーのバスやモノレールにも乗れーることが出来ました。

雨の中での観光となりましたが、それぞれ楽しい思い出が出来たようでした。

大雪祭り

（屈足わかふじ園）

10月3日に屈足公園で大雪祭りが開催され、当日は天気も良く、屈足公園が施設の近くということもあり、散歩がてら会場へ行きました。

当日は25名の利用者が参加し、焼きそば・フライドポテト・串焼き等を祭りの雰囲気を味わいながら食べられ、また祭りの出店には、食べ物以外にも手芸・工芸等の販売コーナーがあり、作品を購入されている利用者もいました。

祭りの中で『特捜戦隊デカレンジャーショー』を応援しながら観たり、『嶋淳一さんの歌謡ショー』を観ました。利用者の中には嶋さんと握手をされ、大いに楽しまれたかと思います。

参加された利用者は秋晴れのもと、祭りを十分に楽しみ、来年もまた行きたいと言われる方もいました。

カラオケ大会（屈足わかふじ園）

10月27日にカラオケ大会を開催しました。普段から人気があるクラブの大会ということもあり、この日のカラオケ大会も大変盛り上がったように感じました。普段は歌いたい方から順番にカラオケを楽しんでいただいていますが、当日は時間の都合上抽選で歌う利用者を選出しました。抽選からもれた利用者は、自分の歌を披露出来ず、残念そうにされていましたが、他の利用者の歌を真剣に聴かれていました。

どの利用者も普段とは少し違った雰囲気に緊張されていた様子でしたが、普段から鍛え上げている歌唱力を、思う存分発揮されていました。今回は、景品を参加された利用者に渡し、見学された利用者は飲み物を飲みながら応援されていました。

カラオケクラブに参加されている利用者の中には、次回のカラオケ大会が待ち遠しく、クラブにて歌唱力を磨く練習をしていくと意気込んでいる利用者もいました。

秋の味覚祭（屈足わかふじ園）

10月8日に施設内で味覚祭を行いました。当日は、イモ団子・カボチャ団子・鮭のチャンチャン焼き・枝豆・とうきびに汁物と、テーブルに乗りきらない程のたくさんの秋の味覚が並びました。

イモ団子とカボチャ団子は、利用者と職員が一緒に作っていた物を焼き、食べる際に「これ私が作った団子だ」等、自慢げにお互いに話し合いながら食べられていました。鮭のチャンチャン焼きは、利用者の目の前で鉄板の上で焼いたため、とても楽しそうにその様子を見学されていました。

イモ団子については、美味しいといって何度もお代わりをする利用者がたくさんいたため、イモ団子が売り切れて最後には足りなくなるというハプニングもありました。中には、鮭のチャンチャン焼きの味付けが少し甘かったという利用者もいましたが、みんな喜んで美味しく食べられていました。

屈足手打ちそばの会（そば打ちボランティア）

（わかふじ寮・屈足わかふじ園）

屈足わかふじ園（11月6日）とわかふじ寮（12月11日）では、屈足手打ちそばの会の皆様にお越しいただき、そば打ちの披露と打ち立てのそばを振る舞っていただきました。

屈足わかふじ園では、当日は9時半頃より、そば打ちの仕込みが始まり、そば粉を練って打って伸ばすという一連の過程に、利用者の方々は惚れ惚れと見入っていました。また、間近でその動作を見られたことにもとても喜んでおりました。

当日の昼食はもちろん打ち立てのそばをごちそうになりました。皆さん「コシがある」「美味しい」と口々に言って召し上がりました。お帰りの際には皆さんで感謝の言葉を述べられ、玄関先まで見送りました。

屈足わかふじ園でのそば打ちの様子

わかふじ寮では今年で3回目となり、これまでは2月に行ってきましたが新そばの季節がいいという要望もあり、12月に行いました。

食堂で水回し、こね、のし、切りまでを手際よく実演し、希望する利用者には打ち方を伝授していただきました。そばは特製のつゆにかしわ、ネギ、天かす、ほうれん草を添えて皆さんの昼食となりました。おかわりする人もおり、毎年好評です。

わかふじ寮でのそば打ちの様子

希望して自分で作ったそばは厨房で一人ずつ茹で、各自で食べていただきました。自分で打ったそばは一段と美味しかった様です。

屈足手打ちそばの会の皆様には本当に感謝しております。ありがとうございました。

きずなの郷　第15号　平成17年1月20日発行
■発行　社会福祉法人厚生協会　北海道上川郡新得町西3条北1丁目　電話01566(4)5001

御寄付・御寄贈ありがとうございました

平成16年9月1日～平成16年11月30日(敬称略)

【厚生協会本部】
大野町　佐々木　晴美
新得町　横尾　義晴

【わかふじ寮】
栗山町　社会福祉法人　栗山ゆりの会
新得町　川崎　勉
芽室町　後藤　幸雄
新得町　菅原　武夫
札幌市　工藤　末吉
苫小牧市　磯部　章
歌志内市　太田　喜三郎
新得町　イトー緑化（有）
札幌市　平田　敬一
東京都　佐藤　兼一
小樽市　金子　治郎
浦幌町　林　茂

【やすらぎ荘】
新得町　千葉　玄昭
田中　利明
坂口　君子
佐藤きみ子
白　生　舎
増田　夏絵
帯広市　千枝　克孝
当麻町　山口　和子
埼玉県　星名徳三郎

【新得やすらぎ荘】
新得町　千葉　玄昭
菊地　乾
中野　耕次
鹿野内善男
安楽　辰雄
増田　夏江
板垣シナエ
成田　唱一
白　生　舎
平　吉子
紺野　啓子
中里　好子
余市町　鈴木　菊二
札幌市　松田　初枝
音更町　岡田美和子
清水町　増田　節子
鹿追町　佐々木花子

【日帰りセンターやすらぎ荘】
新得町　佐藤　弘恵

【屈足わかふじ園】
新得町　桶田　敏光
佐藤　尚子
千葉　玄昭
屈足青空会
高橋　実
高橋　利男
五十嵐　静
八木ツル子
イトー緑化（有）
岡本　征次
佐藤　茂光
小川コユキ
深川　芳夫
白　生　舎
今村ツタエ
帯広市　田中　一男
唯野　展
清水町　大口　和美
丸山小百合
芽室町　古川
音更町　宮路　禮子
幕別町　森　正明
足寄町　高橋　敏
広尾町　森田府美也
札幌市　浅窪みどり
美唄市　鳴原　ヤイ
芦別町　北橋　久光

社会福祉法人厚生協会では、法人の情報をホームページで公開しています。ご意見やご希望についても電話・Eメールで受け付けていますのでご利用ください。

厚生協会ホームページ
http://www.wakafuji.or.jp

厚生協会E-mailアドレス
wakafuji@netbeet.ne.jp（わかふじ寮）
wakafuji@rose.ocn.ne.jp（屈足わかふじ園）

閲　覧

厚生協会の事業報告書･財産目録･貸借対照表及び収支計算書等が閲覧できます。

閲覧場所
厚生協会　法人事務局
新得町西３条北１丁目わかふじ寮内

編集後記

今回の記事を書いている時は12月の中旬であり、そろそろ根雪の頃ですが、発行される時は2005年になるのですね。どうも年号を昭和に置き換えてしまう癖のある私ですが、今年は昭和でいうと80年にあたります。昭和51年生まれの私は…。20代最後の歳を頑張ろうと思う今日この頃です。

S．F

あなただけの家具を作ってみませんか!!

自分だけの暮らしの景色が欲しい…

現在リフォームが流行していますが、ほとんど既製品の組合せです。
既製品はカタログやショールーム等で事前に確認できる安心感がありますが、自分だけの個性的な暮らしができないのが現状ではないのでしょうか？
個性が重要視される時代、それぞれのライフスタイルに合わせた部屋作りをオーダー家具で演出してみませんか…
注文家具を承っている私たちは、部屋の想像（image）を創造（create）するパートナーとしてお手伝いいたします。

私たちが心を込めてお作り致します。

お客様のご要望・お部屋のサイズ・ご予算等にあわせて、自由にプランニングできます。
お問い合わせ　わかふじ寮　01566-4-5001
注文家具担当　片桐・高橋・高松

見積無料